

事務所の近況

東京大学糖尿病代謝内科 石橋 俊

電話介入事務所のお手伝いを始めて2年あまり経ちました。保健婦さんたちの遭遇する様々な問題を聞きながら、勉強させてもっております。論文で読むと数十分で読み終わってしまうような大規模臨床試験の研究成果も、その背後には、とても大切なものが隠されていることに、思いが至るようになってきたような気がします。理念が提示され、知恵が持ち寄られ、和と真心で遂行されて行く過程を体験できるのは、わたしにとっては得難い機会でもあります。

もちろん、現場にはきれいいことではない様々な問題が生じます。そのなかでも、最もわたしたちを悩ませているのが、電話という媒体の限界です。現場で直接患者さんに接している主治医の先生や看護婦・保健婦以上には、患者さんには迫れないもどかしさが常に残ります。その一方で、顔の見えない第3者であるからこそ、はじめに打ち明けてもらえらるような事も少なくありません。そのような情報をうまく活用して、現場の対応だけでは片手落ちになります。そのような診療をサポートしてゆくのが入りの役割のひとつだと考えています。そのためにも、会話がマンネリにならないように工夫を凝らす必要があります。もちろん、専門知識も磨く必要があります。

幸い、済生会中央病院の松岡健平先生を困む症例検討会も回を重ね、赤沼安夫先生にもご参加いただき、糖尿病医療の実践を知るには最高の環境が提供されています。昨年からは、栄養士、運動療法士、薬剤師などのパラメディカルの方々の質疑応答形式の勉強会も始め、更に技を磨いております。このような中から、新しい価値が生まれてくるような予感さえ感じます。

もちろん、大規模臨床試験は、介入効果があったか否かが厳正に問われるハードなサイエンスですが、人と人が作るソフトな面を抜きには達成できないのではないのでしょうか。そこに、少しでもお役にたてるようにと思っております。

事務局から

4年次の調査票のための検査期間は
この3月末までです
各患者さんのご確認をよろしく
お願い申し上げます

4年次調査票は4月上旬～中旬に
送付の予定です
その節はよろしく
お願い申し上げます

お願い

今年度は必ず提出期限をお守りいた
だきたく、今からよろしくご協力の
ほどお願い申し上げます
コンピューター入力がおくれて解析
結果がなかなか得られず、困って
います

各施設の先生方もお忙しい中で大変
ご苦勞な作業と拝察いたしますが、
研究班の諸事情をご賢察のうえ、よ
ろしくご協力くださいますよう、せ
つにお願ひ致します